

## SY3-4

## 成育医療等基本方針の指標(保健)

上原 里程

国立保健医療科学院政策技術評価研究部

国の21世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画である「健やか親子21(第2次)」は、2015年から開始され2019年の中間評価を経て2022年に最終評価が予定されている。

中間評価では目標値が設定されている52の指標のうち34指標(65%)は改善していたが、さらに取り組むべき課題や新たな課題も指摘されている。2019年度から3年間にわたる厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「母子保健情報を活用した『健やか親子21(第2次)』の推進に向けた研究」班(以下、研究班)では、中間評価を踏まえて、成育医療等基本方針(以下、基本方針)の母子保健領域の施策評価に必要な指標を提言した。

研究班では、「健やか親子21(第2次)」の5つの課題と3段階の指標(健康水準、健康行動、環境整備)の枠組みのなかで、目標値を設定した指標に参考指標を加えた80指標について基本方針へ提案すべき指標を選定した。合わせて、基本方針に新たに記載された課題との関連を検討し、新たな指標を提案すべきかどうかとも検討した。基本方針では、保健に加えて、医療、教育等との連携が求められており、同「成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究」班とともにロジックモデルを活用した基本方針全体の指標を取りまとめ、2021年12月24日の成育医療等協議会で報告した。

本シンポジウムでは、「健やか親子21(第2次)」から提案した基本方針の保健領域の評価に必要な指標について述べるとともに、今後の「健やか親子21(第2次)」のあり方や基本方針との関連についても議論したい。